

よしまい

2020年9月13日



5羽軍団参上!!

目次

- 公園の風景
 - 鳥の重さって、知ってる?・・・1
 - クロツラさん、見られてますよ!・・・1
 - 茅葺ハウスは誰の家?・・・1
 - 公園のはちみつ・・・1
- Sさんカエル池をつくる その⑥・・・2
- みんなのひろば
 - いつもの浜に恐竜出現!?・・・2
- 活動紹介
 - 根っこ綱引き・・・3
 - ずぶ濡れ 夏・子・・・3
 - 楽しい♪俳句教室・・・3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

「葦の会」はきらら浜自然観察公園を中心に、自然を知り・親しみ・守る団体です。自然を楽しみながら、その素晴らしさを伝える活動をしています。ご一緒しませんか？

会員募集中！（高校生以上）

公園の風景

= 鳥の重さって、知ってる？ =

葦の会謹製、野鳥のぬいぐるみが完成しました。表紙写真の左上からミサゴ、オオバン、カイツブリとハマシギ、マガモの5体です。 製作者曰く「色や形はデフォルメされてちょっと間が抜けた顔をしています。体長体重は本物とほぼ同じ。他にもマガモの水かき感やミサゴの足裏イボイボ感の表現など、つついこだわりを詰めてしまいました。」

持ってみると意外に重いのでびっくりすると思います。普段野鳥を抱く機会はないので、是非このぬいぐるみで鳥の重さを体感してみてください。そして大きな餌を運んだり何千キロも渡ったりする鳥たちに思いを馳せてみてください。



= クロツラさん、見られていますよ！ =



クロツラケージ前の干潟に、将来のクロツラヘラサギ繁殖実現を目指す人工島ができました。デコイも置いてクロツラヘラサギを呼び寄せせる計画です。また、ケージ内にはライブカメラが取り付けられ、観察ホールのモニターで2羽の様子が観察できるようになりました。録画もされているので、夜でも餌を食べているところなども見られます。公園のはずれの安全なケージの中でのんびりと過ご

しているクロツラさんたち、ごめんなさい、見られていますよ！

= 茅葺ハウスは誰の家？ =

展示ホールにこの夏仲間入りしたケース内の小さな丸い茅葺ハウス、その家主は…カヤネズミ。カヤネズミは草丈の高い草原に生息し、細く裂いたイネ科植物の葉を器用に編んで丸い巣をつくりま



カヤネズミの巣

るの、北九州市立いのちのたび博物館で繁殖して増えたものを分けていただいた4個体のうちの1ペア。せわしなく動きまわる姿に立派な巣、見ていて飽きません。親指サイズの日本一小さなネズミ、そっとのぞいてみませんか？



ちょっと休憩

= 公園のはちみつ =

ビジターセンターの東わきに置かれた養蜂箱。ミツバチにより公園内の花々（主にトベラとアカメガシワ）から集められた花の蜜がはちみつとなり六角形の巣の中に蓄えられるのです。今春のはちみつがボトルに詰められ、ようやく純度100%、糖度約80%の「きらら浜産はちみつ」として商品化されました。公園の受付でお求め頂



けます。養蜂箱の管理は昨年より養蜂家の金光さんから中村さんに引き継がれ、今年が中村さんの公園デビューとなるハニーです。中村さんは葦の会会員でもあり、養蜂箱のチェックに足繁く公園においでです。見かけられたらお声をかけてみられてはいかがでしょうか。

活動紹介

= 根っこと綱引き =

クロツラヘラサギ保護ケージ周辺の整備活動も一段落。環境サポートチームの8月の活動は、ビオトープに根を張りすぎているガマ、ヨシ、クログワイ、更には花の可憐なスイレンまで根っこから抜き取る作業でした。根を引き抜くのは至難の業。猛暑の中、胴長を着込み汗だくで取り組むものの早々はかどることもなく、熱中症への心配もあり1時間半ほどで切り上げました。



池の植物が茂りすぎるとトンボたちも集まりにくくなり、本来のビオトープとしての動植物の共存が図れなくなってしまう。若干ながら風の通り道も出来ましたが、ひと月後はどうなっているのやら。

= ずぶ濡れ 夏・子 =



梅雨も明けきらない曇空の下、恒例の「夏休み子ども早朝観察会」が7月26日(日)に開催されました。子供たちは道中、説明を聞きながら植物や鳥を観察。カエルやミミズを触ったり、園外での昆虫採集ではバッタやトンボ、チョウなどを捕まえ、虫かごが空っぽな子は誰もいませんでした。例年は高く飛んで手の届かないチョウトンボも、当日は悪天候のおかげか低空飛行で捕りやすかったようです。帰り道はスコールのような雨に降られ皆ずぶ濡れでしたが、それもこれも夏休み期間が短縮された子供たちにとって、今夏の良い思い出となったことでしょう。

<優秀作>

= 楽しい♪俳句教室 =

今年度よりスタートした公園企画の月一回の俳句教室。コロナの影響で4月の開催は叶わず、5月に一堂に会し始動となりました。宇部在住の兼久ちわき先生のご指導の下、「吟行」と称する作品の題材をさがす散策へ。自然いっぱいの公園は俳句作りにも打ってつけの場所でもあるのです。俳句の決まり事を楽しく学び、己の感性を磨きながら毎回一句詠みます。列記された全員の作品の中から個々に良い二句を選び、推薦数の多い作品が当月の優秀句となります。まだまだ先生から赤ペン修正を頂くのが現状ですが、一般参加者と葦の会メンバーとの交流も生まれ、教室の今後がとても楽しみです。

・舞い誘ふ森の小径へるり揚羽

7月

・やいと花枯れ木にぶらりぶらりんこ
・晴天を背中に映す銀やんま
・木陰より眺むる蟬の足の位置

8月

葦の会会員のSさんによるカエル観察も今号にて完となりました。6号にわたり知らなかつた 編集後記 の充実に貢献いただきありがとうございました。

読者の皆様も是非とも投稿お寄せ下さい。お待ちしております！

(Tasha)

Sさん カエル池を造る・・・その⑥



42日目にして卵からかえった小ガエルたちは3～4日ほど池の藻の上で過ごしていたが、7月下旬(2018年)池の周りの草の中へ虫を捕りに上陸していった。

池へ向かう私の足音がすると“危険を察知!”とばかりに草の中から飛び出してチャポチャポと池に飛び込むのがおかしい。体の大きさも3～4cmほどになり、10月末に冬眠に入る。



PIXTA.jp - 8887730

前年まで米作りをしていた隣の田んぼにはもう水が張られることはありません。7月のある大雨の夜、勘違いをしたカエルたちが産卵に集まり、かわいそうに一晩中大合唱していました。雨が上がればその田んぼは干上がってしまい、卵は育ちません。

食べたり食べられたり、自然界の多様性を保つためにも、カエルは欠かせない存在なのではないでしょうか。カエルは自分の生まれた場所の匂いを記憶しているといえます。春になり、あちらこちらで冬眠から覚めたカエルたちが生まれ故郷の水田や湿地へ戻れることを願わずにはいられません。

(おわり)

みんなのひろば😊

いつもの浜に恐竜出現!?

砂と水が日々違う模様を作る宇部市東岐波の遠浅の海。干潮時の景観は見事です。2018年にNHKで放映された「これが恐竜大国、日本だ!」では、何年か前に北海道で見つかった巨大恐竜の「むかわ竜」をはじめ、大小さまざまなCGの恐竜たちがのし歩くその背景に、ここ東岐波の干潟が使われました。幅2キロ、奥行き700メートルある全国有数の広大な干潟は、同じNHKで放送中の「ダーウィンが来た」のディレクターも絶賛の場所だそうです。

毎日眺めている平和な浜で繰り広げられる恐竜たちの死闘はリアルで、見ているうちに太古の時代にタイムスリップしたような感覚になりました。

(nimu)

